

令和5年度一関市スポーツ推進審議会 会議録

- 1 会議名 令和5年度一関市スポーツ推進審議会
- 2 開催日時 令和6年1月30日（火） 午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所 会議室棟第1会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 伊藤成子委員、及川加奈子委員、小野寺勝委員、小幡和夫委員、鎌田貞雄委員、亀谷キイ子委員、菊池正人委員、佐々木賢治委員、佐藤紀文委員、須藤光子委員、萩田進委員、平野和彦委員、藤原洋委員、佐藤和江委員、千葉京子委員、沼倉恵子委員
 - ※ 欠席者 及川圭二委員、千葉美幸委員、熊谷吉大委員、渡邊和貴委員
 - (2) 事務局 佐藤善仁市長、小野寺愛人まちづくり推進部長、平石剛スポーツ振興課長、西洋知スポーツ振興課スポーツ施設係長、濱井大輔スポーツ振興課スポーツ交流係長、藤代由香里スポーツ振興課主任主事
 - ※ 欠席者 千葉翔太スポーツ振興課主事

5 議題

- (1) 会長の互選について
- (2) スポーツ推進計画に基づく各種施策の実施状況について
- (3) 令和5年度における市民のスポーツ活動に関するアンケート調査結果について
- (4) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 0名

8 委嘱状交付

佐藤善仁市長から、新しく委員となる20名（4名欠席）に委嘱状を交付した。交付は、及川加奈子委員が代表受領した。

9 佐藤善仁市長挨拶

大変お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

本日、委嘱した皆様方には様々な意見を頂戴したいと存じております。

私は、市長就任当初から人口減少を最優先課題として捉えております。人口が減る要素は2つあります。1つは自然減です。出生数と死亡数の差で増減が起こります。

もう1つは社会減です。転入と転出の差により増減が起こります。最近10年間ほどの数字を見てみると、社会減は10年前からほぼ数字が変わっておりません。一方で、自然減に関しては年々増えている状況にあります。まずは、社会減をゼロにしたいと考えております。そのためにはまず仕事だと思えます。働く場所がないと住むことは難しいと思えます。そのほかは暮らしやすさ、住みやすさが重要になり、そのための大きな要素の1つがスポーツだと思っています。小学校や中学校から経験している種目を、社会人になってからも頑張っていたら、好成績を残した際には祝福したり、働き方において大会などに出場しやすい環境を作ったり、様々な方法で生涯にわたってスポーツに親しめるよう協議していただきたいと思えます。

本日の案件は、一関市スポーツ推進計画に基づく市の各種施策の推進について、令和4年度の実績と令和5年度の実施状況について説明を申し上げますので、取組内容について、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

10 協議内容

(1) 会長の互選について

一関市スポーツ推進審議会条例第5条第1項の規定により、会長に平野和彦委員を、副会長に須藤光子委員をそれぞれ互選した。その後、会長から以下のとおり挨拶があった。

(2) 平野和彦会長挨拶

委員の皆様方のご協力により審議会を進めてまいりたい。

(3) スポーツ推進計画に基づく各種施策の実施状況について

資料1に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 資料2ページの「1 スポーツに親しむ機会の創出」について、複数の事業を実施しており非常に良いと思うが、単発事業が多い。継続するような計画があればスポーツ振興につながると思う。

資料3ページの「10 見るスポーツの機会の創出」について、新しい事業などを計画すると盛り上がるのではないかと。

資料4ページの「3 高齢者スポーツの推進」について、市人口の5割近くが高齢者となっている。高齢者の健康につながるようなスポーツを取り入れることが大切であるため、日常的に体を動かすことができる事業を検討いただきたい。また、事業は単発でなくて継続して実施する仕組みが必要ではないかと。

資料 6 ページの「1 競技力の向上」の「2 全国体育大会等の出場に対する支援」について、社会人の全国大会や東北大会に出場している方の中で、市からの支援金の有無は市町村でばらつきがある。他県のある市では、全国大会へ出場すると支援があると伺っている。一関市でも全国大会に出場する社会人に対しても支援する仕組みにしてもいいのではないか。

資料 13 ページの「市スポーツ施設利用回数」について、利用人数が 44 万人と説明があったが、何の数字を参考に行っているのか教えてほしい。

事務局 「スポーツに親しむ機会の創出」では単発の事業が多いが、皆さんにはスポーツに親しむきっかけとして、幅広く様々なスポーツを体験していただきたく、スポーツ教室などを体育協会に委託し開催している。各スポーツ団体と連携し継続していく体制作りを検討していきたいと考えている。

「見るスポーツ」について、多くの市民の方がスポーツに関心や興味を持ってもらえるよう、種目別競技協会と連携し大会誘致に対しても支援をしていきたいと考えている。

「高齢者の方のスポーツ」について、スポーツを所管する当課と福祉を所管する長寿社会課と、ともに連携しスポーツ推進委員を活用した高齢者のスポーツ活動の充実に努めていきたいと考えている。

「全国大会へ出場の際の補助金」について、一関市議会でも説明をしたが、当市では児童生徒に対しての支援としている。子ども達がスポーツ活動を制限なく行うことができ、さらにレベルの高い大会などに出場できるように支援をしている。社会人については、今後、他市の状況を調査しながら検討をしていきたい。

「市スポーツ施設利用回数」であるが、スポーツ施設を利用した数は延べ人数となっており、市全体で延べ 44 万 2,129 人である。

委員 市スポーツ施設利用回数の延べ人数は、何の数字を参考に行っているのか教えてほしい。

事務局 施設を利用する際に提出していただく、利用申請書にある人数の合計である。

委員 資料 2 ページ「1 スポーツに親しむ機会の創出」の「3 ニュースポーツの普及促進」について、計画に「地域事業、老人クラブ等が行うスポーツ関連事業にスポーツ推進委員を派遣する」と記載があるが、行事のときに一関市内各地域のスポーツ推進委員が、一生懸命に活動しているの

は把握している。「みんなのスポーツフェスタ」や、ほかにも様々な事業が行われており、小さい子どもから高齢の方も一堂に会してニュースポーツを楽しんでいる。スポーツ推進委員は、一生懸命に活動しており評価できる。しかし、スポーツ推進委員の存在を知らない人が多いという話を聞いている。今後、スポーツ推進委員の存在や活動内容を、市民の皆様へ情報提供をしていく必要があると思う。

資料3 ページ「1 スポーツに親しむ機会の創出」の「8 市民アンケートの実施」について、市民の皆さんがスポーツに関してどのような認識や意識、ニーズを持っているかを把握して、今後のスポーツ施策に反映させることが大事と思う。調査結果を検証しスポーツ行政に生かしていただきたい。

資料4 ページ「2 子供のスポーツ活動機会の充実」の「4 市内学校、関係機関等との連携」について、中学生の部活動は、将来的には現在学校で行っている部活動が地域に移行するよう全国的に検討を進めている。

岩手県では、2021 年度に岩手町・葛巻町、2023 年度は盛岡市・宮古市・大船渡市・西和賀町・九戸村でモデル事業を行っていると同った。一関市でも、部活動の地域移行について取り組まなければならないと思う。一関市では、地域に移行している団体は千厩の柔道や東山の卓球などがある。保護者や地域の人たちも協力していると聞いている。現時点で、中学校部活動の地域移行に向けての現状や計画について伺いたい。

事務局 ニュースポーツは、老若男女で定着しているスポーツであり、スポーツ推進委員や地域の方にもご協力いただき、スポーツ推進を図っているところである。

また、市民アンケートの結果で「スポーツ推進委員の活動を把握していない」という回答が多いことについて、当課から市民センターの所長や地域の代表者などが集まる会議の場で説明をしたが、市民の皆さんに浸透していないため、より一層情報発信をして周知に努めていきたい。

市民ニーズに沿った事業の実施について、当課としても実施するだけではなく、効果を検証し住民の方が求めているニーズに沿った事業を検討していきたい。スポーツ教室などを委託している一関市体育協会と連携を図りながら、市民のニーズに沿った取組みやすいスポーツ機会の提供に努めたいと考えている。

地域部活動の今後のスケジュールであるが、当市では教育委員会が担当し事務を進めている。当課でも学校部活動とスポーツ行政の管理・生涯スポーツ推進の観点から、子ども達のスポーツ活動の機会の充実を近々の課題と捉え、教育委員会と各種目別競技協会、各関係団体との間で共通認識を持ち、子ども達にとって望ましい形を一緒に考えていきたい。

委員 部活動の地域移行について、現在、スポーツ少年団が市内全域で 111 団体あると伺っている。スポーツ少年団は小学校の生徒たちの方が多い。中学生は、〇〇中学校〇〇部スポーツ少年団という名前で活動している現状もある。既存のスポーツ少年団とタイアップ、連携して一緒にやるなど、指導者、小学生と中学生と一緒に競技スポーツを行う方法、一緒にスポーツに取り組む方法も可能と考えている。

実際に私は卓球に携わっているが、小学校と中学校の子どもと一緒に練習している団体もある。中学校に行ってから大会などで好成績を残しているメンバーもいる。スポーツ少年団という組織と、部活動のあり方をタイアップ、連携して考えてもいいと思う。

(3) 一関市民の令和 5 年度における市民のスポーツ活動に関するアンケート調査結果について

資料 2 に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 資料 1 ページの「市民のスポーツ活動に関すること」の現状で、1 行目の記載に誤りが見られるので訂正が必要と思う。

資料の 4 ページの「Q24 あなたは、一関市公共施設予約システムを利用し、パソコンやスマートフォンなどから市のスポーツ施設の空き状況の確認や利用予約をしたことがありますか」の質問について、選択肢 3 「できることを知らなかった」の数値が 50%を超えている。各競技協会の皆さんがスポーツをやりたいと様々頑張っている。予約システムの利用に関して、周知していく必要があると思う。同じく、「Q 26 あなたは、今後一関市において、生涯に渡ってスポーツを行うために何が必要だと思いますか」の質問について、選択肢 1 「気軽に参加できるスポーツ教室やイベントの開催」が 43%であり、選択肢 2 「各世代にあったスポーツ活動の推進」が 37.5%になっている。この 2 つの選択肢の合計で約 80%になる。市民のニーズが表れていると思うので、

この結果を踏まえて、今後のスポーツ行政の推進について取り組んでもらいたいと考えている。

事務局 公共施設予約システムは、利用者の利便性を考えスマートフォンからでも予約ができるシステムであり、気軽にスポーツに親しむスポーツ施設を活用できるよう、広く皆さんに更なる情報発信を図っていきたいと思う。

アンケート結果から、市民の方はスポーツが嫌いな方は少ない。スポーツは好きだがきっかけがないという方も多いと思うので、体育協会や各スポーツ関係団体と連携しながら、市民の方が気軽に参加できるスポーツの機会の充実を図っていきたいと考えている。

委員 資料1ページの「Q5あなたは、スポーツをすることが好きですか」の質問について、選択肢1「好き」、2「どちらかといえば好き」、3「普通」の回答が約8割を占めている。市民の皆さんはスポーツが好きということである。しかし、次の質問「Q6あなたはスポーツをどの程度行っていますか」の質問で、選択肢「6ほとんど行っていない」という回答が半分近い数字である。また、資料2ページの「Q8あなたは、スポーツを主にどこで行っていますか」の質問について、「6自宅およびその周辺」という回答が多かった。これらの調査結果を踏まえて、今後のスポーツ振興につながるよう検討してほしい。皆さんの目的は様々あるため、健康作りなどについての事業を検討してほしい。高齢者の皆さんや、スポーツ少年団の皆さんの意見も十分聞いてほしいと思う。

資料4ページの、「Q23市のスポーツ施設としてもっと充実してほしい施設は何ですか」の質問で屋外施設の回答があったが、サッカーは昔から野球やソフトボールのように、世界に通ずるスポーツになっている。一関市には人工芝のサッカー場がある。しかし、一関市で大会を開催できるかというところではない。野球でもほかの競技でもサブグラウンドが必要になる。まずは、プロを目指すというよりも、サッカーを通して、スポーツの楽しさを知ってもらうことを重要視している。砂地や土のグラウンドだとスライディングなどで怪我をしてしまうことがある。ユードームのところ、サブグラウンドがあるのが1番理想だが、他地区でもいいので施設を増やすよう検討してほしい。他市に広い芝生グラウンドがあるので、ぜひ参考にさせていただきたい。皆

さんが楽しむだけでなく、大会などの誘致もしたいということであれば、サブグラウンドなども考えていただきたい。

今、プールが充実しており、ユードームの隣にプールがある。スポーツのまち一関市ということであれば、夏だけのプールでは足りない。寒い時期にも体を動かせるように環境整備してこそ、スポーツのまち一関市と言えると思う。検討をお願いしたい。

最後に、資料4ページの、「Q27 あなたは、今後一関市の競技スポーツを推進するために何が重要だと思いますか」の質問について、回答3の「トップアスリートとの交流や実践指導を受ける機会」がある。サッカー競技において、著名な日本のアスリートの方から市内小学生が指導してもらったこともあるが最近では実施されていない。身近なトップアスリートとの交流も検討いただきたい。また、スポーツ講演会で著名な方を呼ぶことはあるが、講演会が終わるとそのまま帰路についてしまう。せっかく一関市というまちに来て、講演会だけして帰るのは一関市に来た意味がないと思っている。何か観光や体験の思い出をお持ち帰りいただきたい。その方が、ラジオやテレビで一関市をPRする可能性もある。希望としては講演会だけでなく、一関市を体験していただけるようなスケジュールで呼んでいただきたい。

事務局 アンケート結果で、スポーツが好きだが実施できていないところがある。スポーツといっても様々で種類が多岐にわたり、競技スポーツもあれば自宅周辺のウォーキングというところもある。市の基本理念のとおり、市民1人1人がスポーツを日常生活に取り入れられるような取組を関係機関と協力しながら、スポーツを通じて健康作り、まちづくりを目指していきたいと思う。サッカー場のサブグラウンドについて、スポーツ施設の充実がスポーツ振興に寄与するところではあるが、市内には既存のスポーツ施設も多くあり老朽化も進んできている。そういうことも踏まえながら、今後のスポーツの施設の充実について検討していきたいと考えている。

「トップアスリートに触れる機会の創出」について、以前「夢の教室」という事業でトップアスリートと触れ合う事業を実施していたが、現在は当市では実施していない。一関市出身のトップアスリートと触れ合う機会の創出について検討している。レベルの高い技術の指導を受

ける機会とともに、地元から立派な選手がいることをPRするなど、地元愛につながる施策を考えていきたいと思う。

観光面だが、今後著名人の方が来た際は、当市のPRも必要であるため、一関市の観光地をPRしながら良さを伝えていきたいと考えている。

委員 資料4ページの「屋外施設」について、昨年度に市のウォーキングコースを設置していただいた。設置するだけでなく、環境整備も地域の方々と協力して実施していただきたい。Q23の回答で、「遊びながら体を動かせる施設があれば」とある。気軽に遊べる施設を整備することにより、経済発展につながり、定住者や若者が増えてくるのではないかと思う。また、地域住民が健康で生活していくために必要なことでもあると感じた。

委員 「スポーツ推進委員の活動」について、市民センター所長などが集まる会議で説明したとあったが、私は聞いたことがない。これは毎年出てきている意見であるため、周知方法について検討してほしい。また、プールを冬場にも使いたいとの意見は、私も同じように感じているので検討いただきたい。

部長 皆さん貴重な意見をありがとうございました。非常に多種多様なご意見をいただいた。今回はこの時期に審議会を開催したため今年度の状況を話したが、来年度からは、年度初めの早いうちに1回目の会議を開催し、予算についての会議を1回開催して、計2回の開催を予定させていただきたいと思う。今の事業状況、次年度へどのように反映させていくかということも含めて話をしないといけないと思う。本日の意見に関しては、令和6年度の事業の中でできるものから実施していきたいと考えている。1つ1つの課題をクリアしていきたい。

委員 ジュニア世代が減っていることが問題であると思う。子ども達が気軽にスポーツが出来たり、遊べたりする場所を与えることが重要である。施設を借りると利用料金がかかるので、子ども達に対しては、最低限の金額で施設を利用できるよう検討していただきたい。

11 担当課 まちづくり推進部スポーツ振興課